

## よみがえる「河ロコレクション」の世界

文化財課

### 「河ロコレクション」とは

「河ロコレクション」とは、本県の埋蔵文化財保護体制が整う前の昭和20年代から半世紀以上の長きにわたり、離島を含む県内各地の考古学的調査・研究を行ってきた、故河ロ貞徳氏(1909-2011)が発掘調査し、収蔵・保管していた考古関連資料群のことです。

土器や石器、貝製品や骨角器等の遺物のみならず、写真・実測図・書籍・地図等の膨大な量からなる資料群は、平成24年12月、御遺族の厚意により県立埋蔵文化財センターに一括寄贈されました。センターでは、これまでも寄贈資料の基礎整理や重要遺跡の再整理を行ってきましたが、新たに令和2年度から、「よみがえる『河ロコレクション』の世界」事業として、資料の調査・整理・公開等に取り組むこととなりました。

#### 事業の目的と展開

本事業は、考古学史的に重要として全国に知られた資料も多い「河ロコレクション」を、あらた



当時勤務していた鹿児島玉龍高校の考古学資料室にて(昭和30年代前半)

めて調査・研究し、再評価することにより、本県のみならず我が国の歴史を語る上で欠かせない資料であることを明らかにし、県内外に紹介することを目的としています。このように重要遺物がまとまっていることや、その再整理・再評価に取り組む事例は少なく、全国的にも注目されています。

これまで再整理を行った資料のうち、弥生時代中頃(約2千年前)の南九州を代表する土器がまとまって出土した錦江町山ノ口遺跡や、縄文時代中頃から終わり頃(約3～5千年前)の南西諸島を代表する遺物が出土した伊仙町面縄貝塚の資料は、その価値が再評価され、県の有形文化財に指定されました。また、山ノ口遺跡出土品は、文化庁が毎年開催する「発掘された日本列島展」の展示品にも選ばれ、全国各地を巡回しました。



山ノ口遺跡出土品(県指定文化財)

今年度は、縄文時代の終わり頃(約3千年前)の土器や石器、勾玉などが多く出土した南さつま市上加世田遺跡の再整理を進めています。

なお、「河ロコレクション」の一部は、県立埋蔵文化財センターのエントランスホールや上野原縄文の森の常設展示コーナーで常時公開していますので、是非ご覧ください。